

太宰府市俳句ポスト第百二十回入選者

令和五年八月九日～十一月十四日

選者 阿比留 初見

法師蟬啼きつぐ樹林に憩ひをり

太宰府市 有岡 和砂

女郎花令和の里の夢の跡

さいたま市 早瀬 慎一

冬場所に想ひ巡らす宿禰像

筑紫野市 長瀬 伸二

ほろほろとこぼるる零余子シャツで受け

太宰府市 後藤 保子

葉擦れにも秋を深めてゆく湖畔

北九州市 元田 品子

神牛と同じ目線やいわし雲

太宰府市 平野 香

万葉の歌碑に湖風秋の風

那珂川市 池田 ひさ絵

太宰府の街を眼下に秋深し

福岡市 児嶋 順子

山頂の海向く社鳥渡る

福岡市 白井 道義

暑き日の友と新幹線の旅

川崎市 畠中 信之介

万葉の歌碑へ誘ふ芒かな

太宰府市 白石 照子

参道の床几に休む蜻蛉かな

筑紫野市 寒竹 賢次

秋高し起き抜けの歩の三千歩

太宰府市 兼田 和加子

秋めくや千年樟の風やさし

幅津市 柴田 佳津子

宝満の山並み歩き秋の風

福岡市 田中 茂樹

神苑にひびく歓声宮相撲

太宰府市 吉嗣 のり子

だざいふの空気いっぱい七五三

北九州市 坂井 来彩 七歳

あさがおがいつつさいたよきようのあさ

東京都 山田 一嘉 八歳

秋深し受験勉強諦めない

古賀市 亀山 柊翔 十四妹

妹の合格願い太宰府へ

東京都 伊豆 和菓奈十四歳